

令和6年度 全国学力・学習状況調査の大磯町結果の分析について

大磯町教育委員会

1 はじめに

大磯町では、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「令和6年度全国学力・学習状況調査」を令和6年4月18日（木）に実施しました。

本調査は、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象としたもので、大磯町は小学生250名、中学生214名が参加しました。（※児童自立支援施設おおいそ学園内にある大磯町立国府小・中学校生沢分校に在籍する児童・生徒も含む。）

令和6年7月29日（月）に文部科学省からの調査結果公表を受け、令和6年度大磯町「全国学力・学習状況調査」結果分析・活用検討委員会を組織し、大磯町における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析してまいりました。このたび、調査結果の報告がまとまりましたのでお知らせいたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。このことに留意して、町として教育施策・教育活動の改善に努めてまいります。保護者・地域の皆様には、本調査の目的及び結果公表の趣旨をご理解いただくとともに、大磯町の児童生徒の健やかな成長のために、公表資料を有効にご活用いただきますようお願いいたします。

2 調査の内容

- ・教科に関する調査（国語、算数・数学）
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

3 調査の結果について

（1）教科別調査結果

〔小学校〕

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	9.2 問/14 問	65%	10.0 問	3.2
算数	10.1 問/16 問	63%	11.0 問	3.8

〔中学校〕

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	8.5 問/15 問	57%	9.0 問	3.3
数学	8.4 問/15 問	53%	9.0 問	4.2

※平均正答数：児童生徒の正答数の平均。（正答数の平均/総問題数）

平均正答率：児童生徒の平均正答数を百分率で表示。

中央値：集団のデータを大きさの順に並べたときに真ん中に位置する値。

標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。

標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。

（２）教科に関する調査の結果から

【小学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町の調査結果は全国及び県の平均正答率と比較し、大きな差異は見られませんでした。内容ごとに問題を分析すると、学習指導要領の領域において、知識技能のうち「我が国の言語文化に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」について、課題があることがわかりました。

○主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使う。	・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 ・文の中における主語と述語との関係を捉えることができる。 ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

○授業の充実に向けて取り組んでいくこと

・主語と述語の関係について、低学年から繰り返し指導を行う。 →日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりすることに重点を置いた指導を行う。	
・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導を行う。 →伝えたことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする。	
・登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結びつけ、それらを基に性格や考え方などを総合して判断できるようにする指導を行う。 →内容面だけでなく表現面にも着目して読むことが、物語の全体像を具体的に想像するために重要であることを伝える。	
「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書小学校国語（国立教育政策研究所）」より	

【小学校算数】

今回出題された学習内容について、大磯町の調査結果は全国及び県の平均正答率と比較し、大きな差異は見られませんでした。内容ごとに問題を分析すると、学習指導要領の領域においては「Ｂ図形」について、課題があることがわかりました。評価の観点別平均正答率のうち、「思考・判断・表現」の観点において、全国及び県の平均正答率には達しているものの、より高めていく必要があると考えられます。

○主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
・問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができる。 ・除数が小数である場合の除法の計算をすることができる。	・直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかを見る。 ・道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。 ・折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる。

○授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・図形を構成する要素を見出し、それらを活用して体積を求められることができるように指導を行う。
→身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見出し、体積を求めるために必要な情報を判断できるように指導する。
- ・二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察できるように指導を行う。
→場面や目的に応じて、単位時間あたりに移動できる長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるように指導する。
- ・二つの数量の関係に着目し、速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解できるように指導を行う。
→道のりと時間が比例の関係にあることに着目して理解できるように指導する。
- ・グラフを読み取り、見出したことを表現する指導を充実させる。
→日常生活の場面のデータをグラフに表し、グラフのどの部分を基に必要な情報を読み取ったかを意識させながら、見出したことを表現できるように指導する。

「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書小学校算数（国立教育政策研究所）」より

【中学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町の調査結果は全国及び県の平均正答率と比較し、大きな差異は見られませんでした。内容ごとに問題を分析すると、学習指導要領の領域において、知識及び技能のうち「情報の扱いに関する事項」と、思考力、判断力、表現力のうち「A 話すこと・聞くこと」については習得の状況が良好である傾向にあると考えられるものの、思考力、判断力、表現力のうち「C 読むこと」の項目について、課題があることがわかりました。

○主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
・必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	・文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。 ・短歌の内容について、描写をもとに捉えることができる。

○授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・文の成分の順序や照応について理解し、活用できるような指導を行う。
→語順や照応によって伝わり方がどのように変わるかを確かめたうえで、自分が伝えたいことに合わせて文を整えるなど、知識と活用場面が結びつくように指導する。
- ・目的や必要に応じて内容や文量が異なるということを理解させ、適切に要約することができるように指導を行う。
→要約した文章を読み合い、目的に沿っているかを検討したり、必要な情報を適切に取り上げることができているかを確かめたりするような場面を設定する。

「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書中学校国語（国立教育政策研究所）」より

【中学校数学】

今回出題された学習内容について、大磯町の調査結果は全国及び県の平均正答率と比較し、大きな差異は見られませんでした。内容ごとに問題を分析すると、学習指導要領の領域のうち、「C 関数」について、課題があることがわかりました。また、「B 図形」および評価の観点の「思考・判断・表現」については、全国及び県の平均正答率には達しているものの、より高めていく必要があると考えられます。

○主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
・連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる。 ・複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができる。	・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解している。 ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

○授業の充実に向けて取り組んでいくこと

・データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるような指導を行う。 →判断の理由を、箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるように指導を行う。 ・具体的な場面における問題について、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れる。 →活動に際し、表、式、グラフを活用するなど、数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明できるように指導する。
--

「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書中学校数学（国立教育政策研究所）」より

（3）児童生徒質問紙調査の結果から

〔生活習慣・家庭学習に関する調査結果〕（抜粋）

質問内容	小学校（%）			中学校（%）		
	大磯町	神奈川県	全国	大磯町	神奈川県	全国
朝食を毎日食べている。	96.7	93.6	93.7	92.5	90.0	91.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	81.8	82.2	82.9	78.9	76.4	80.7
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	92.3	91.1	91.6	92.5	90.3	92.5
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている	68.4	73.5	71.1	77.4	74.6	72.2
自分には、よいところがあると思う。	83.8	84.5	84.1	86.4	82.8	83.3
将来の夢や目標を持っている。	79.8	80.4	82.4	72.8	65.1	66.3
人が困っているときは、進んで助けている。	91.5	92.5	92.7	93.4	89.5	90.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	97.5	96.4	96.7	95.3	94.9	95.7
人の役に立つ人間になりたいと思う。	93.9	95.8	95.9	94.9	94.8	95.2
学校に行くのは楽しいと思う。	79.8	85.0	84.8	82.1	84.5	83.8
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	79.0	83.8	83.5	76.9	74.1	76.1

※数値には、「どちらかといえばしている、どちらかと言えば当てはまる」の回答を含む。

〔学びに向かう力に関する調査結果〕（抜粋）

質問内容	小学校（％）			中学校（％）		
	大磯町	神奈川県	全国	大磯町	神奈川県	全国
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。	72.4	76.9	75.8	80.3	76.5	76.2
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	80.2	81.5	80.7	84.5	79.1	78.6
5年生までに（中学1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	85.0	83.3	81.9	86.4	81.6	80.3
学級の友達/生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	83.8	86.3	86.3	82.6	85.5	86.1
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習に繋げることができている。	79.0	80.0	80.8	85.9	77.4	77.9
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいる。	79.3	80.7	81.3	91.1	84.0	82.2
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	82.2	87.1	88.2	91.1	90.8	91.7
5年生までに（中1、2年生で）受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を週3日以上～ほぼ毎日使用した。	83.8	66.4	59.5	95.4	67.8	64.4
学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うことで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。	82.2	87.0	85.5	86.9	81.8	80.2

※数値には、「どちらかといえばしている、どちらかと言えば当てはまる」の回答を含む。

◎児童生徒質問紙の質問への回答状況と各教科の調査結果を比較した時、以下のような質問項目で「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」等の回答をした児童生徒では、各教科の平均正答率が高い傾向が見られました。（必ずしも因果関係を示したものではありません。）

【小学校】

- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。
- 新聞をほぼ毎日読んでいる
- 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することで
 - ①分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。
 - ②自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。
 - ③友達と協力しながら学習を進めることができる。
- 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。
- 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

【中学校】

- 新聞をほぼ毎日読んでいる。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- 1, 2年の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。
- 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。
- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んだ。

小・中学生ともに、本や新聞に触れることの多い家庭では、相対的に各教科の平均正答率が高い傾向が見られました。また、発表等の場面で自らの考えを工夫して考えたり、まとめたりすることへの積極的な関わりが平均正答率に現れる形となりました。小学校ではタブレット端末の活用と各教科の平均正答率に相関関係があると考えられます。また、中学校ではお互いに協力しながら課題の解決に取り組む生徒の平均正答率が高い傾向にあることがわかりました。

4 大磯町教育委員会から

町教育委員会は、本調査の分析結果を各学校に提供しました。学校では、町全体の結果をもとに、各校の詳細な結果の分析と考察を進め、成果と課題を明確にしました。今後の教育活動において、成果についてはさらなる充実と、課題については全校挙げての解決に取り組んでまいります。

今回の調査結果から、町は全国・県と同程度の学力を児童・生徒へ概ね指導できていることが明らかとなりました。その一方で、教科の領域によっては課題が見られる内容もありました。これについては、全ての教員が真摯に受け止め、改善に向けて取り組んでまいりたいと思います。

町教育委員会では、平成29年度から「大磯学びづくり研究推進事業」を拡充し、町内の全小・中学校が研究推進校として、教員の資質向上と共に日常の授業の改善・充実に努めています。また、「日常授業の改善・充実のための小・中相互訪問事業」とし、校種の異なる教員が校区の学校を訪問し、授業づくりについて考える機会も整えています。

大磯町では、多くの児童・生徒が毎日規則正しく生活を送っている様子が伺えます。また、年齢を重ねることによる将来の夢や目標に対する考え方の変化から、大磯町の教育が子どもたちの将来に大きく影響していることがわかります。より多くの子どもたちが、充実した社会生活の実現に向けて希望が持てるように、学校は地域と一体となって見守り続けていきたいと考えています。

I C T機器の利活用については、昨年度に引き続き使用率等で全国平均を大きく上回る結果となりました。I C T機器を活用することで、協働的な学びや深い学びにつながると考えている児童・生徒も多く、その効果的な活用方法が子どもたちの様々な資質・能力の育成において重要な要素であると考えます。これらの機器を適切かつ有効に活用できるよう、さらなる環境の整備と授業研究・授業改善を推進していきます。

学校運営協議会制度が浸透しつつある大磯町の学校教育現場では、学校だけでなく、地域・家

庭と連携し、一体となって大磯町の子どもを育む体制を整えているところであります。学校への地域の関心や期待も強く感じており、より地域に根差した、地域とともにある学校を目指していきます。

A I の進化や刷新される新しいテクノロジーによって、10 年後の未来は全く違うものになっていると予測されています。このような未来を生きる子どもたちのために、物事を主体的に捉え、考えるための必要な力を育成していきたいと考えています。また、教育委員会としてもすべての子どもたちのための必要な支援と学校環境の改善に努めてまいりますので、今後とも学校教育へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。